



永井 恒一さん
Nagai Koichi

〔甲佐町くらし安全推進室〕

ながい こういち / 甲佐町くらし安全推進室長。今年4月、大津警察署長を退職後、現職に着任。災害救助の経験を活かしながら、本町の危機管理業務の統括にあたる。

早めの避難、事前の準備で 自身の命を守る覚悟を持つ

「大雨や台風による災害が激甚化する昨今、いつどこで災害に遭うか分かりません。事前に避難場所・避難経路などの情報を家族と共有しておくなど、事前にできることはたくさんあります。自分の命

を守るための準備をお願いします」と話すのは町くらし安全推進室長の永井恒一さん。警察官として長年にわたり、地域の安全を守る業務に従事してきた永井さんは、熊本県警を退職した今年の春に町く

らし安全推進室長に着任。これまでの経験を活かして本町の危機管理業務の統括にあたる。

「かつて私が機動隊に所属していた時、災害時に救助活動に参加し、何度も危険な経験をしました。訓練を受けていても、人命救助は危険と隣り合わせだと身を持って痛感しました」と救助の難しさを語る。

「まずは、自分の命を守る（自助）ために日頃から心の準備、装備の準備、避難場所の確認を行ってください。次に大事なことは地域で助け合うこと（共助）です。その要となるのが防災士です」と永井さん。

防災士とは、防災の十分な意識と一定の知識・技能を有することを認証する民間資格。行政区長や大学生、児童のお母さんなど全国23万人以上が地域や職場の防災力向上に貢献している。町では地域の防災リーダーとなる防災士の育成を通して、地域防災力の向上を支援し、災害に強いまちづくりを行っている。

「防災とは被害を未然に防ぎ、命を守ることです。そのためには早めの避難が大切です。自分の命は自分で守る覚悟を持ってください。救助を求めるとは救助に向かう相手の命を危険にさらすということ。大雨の季節を前に自身の防災意識を見直しましょう」と話す永井さんは、町民の命を守るために避難の重要性を呼び掛ける。